

先駆 1974 年 12 月 20 日 第 3 種郵便認可  
2021 年 4 月号  
3 月 25 日発行(通巻 995 号)  
毎月 1 回 25 日発行

月刊

# 先 駆

2021 4 月  
995 号

- ◆漂流する菅政権—新コロナ、五輪、米中新冷戦
- ◆地球環境ウォッチング—動物由来感染症から学ぶ
- ◆新連載 〈その時私は…〉—40 年継続する関西共同行動



The Front-League for Socialism, Japan  
フロント [社会主義同盟]

# 題字『先駆』への改題

『先駆』編集部

機関紙『平和と社会主義』から『先駆』への改題は1969年9月に開催された統一社会主義同盟第8回大会で決議され、同年10月28日の184号（改題1号）から実行された。『平和と社会主義』は1964年1月発行を創刊号としており、新聞形式をとったため、前身の『構造改革』誌からの通巻とはしていない。従って「1000号」は『平和と社会主義』と『先駆』両紙・誌の通巻号数となる。

## 革命情勢・権力闘争の時代

では第8回大会で何が論議され、機関紙名改題へと至ったのか。

1968〜70年は「学園闘争、ヘルメットとゲバ棒、ベトナム反戦、日米安保、沖縄返還、文化大革命。激動する東アジアの一環として日本の70年闘争は展開された」（統社同・フロント50周年特別号）時代であった。その当時の同盟指導部の問題意識は、70年安保闘争を前にして、「安保粉砕・秋期政治決戦を領導する強固な同盟を建設し、日本革命を前進させるかどうかという一点に集約される」（同盟第8回大会決議）との表現に窺える。革命情勢、権力闘争の時代が始まったという認識である。

開かれた東大闘争を頂点とする学園闘争やベトナム反戦闘争、4・28沖縄闘争の総括論争の中から、国大協路線粉砕、「内ゲバ」方針、街頭実力闘争を巡る分岐が同盟内で顕在化し、69年5月の第7回大会で激突する。大会では全国委員（安東仁兵衛書記長）の辞任、全国委員会の機能停止、都道府県代表者会議の臨時設置、機関紙名の改題を決めただけで流会、4カ月後の第8回大会に引き継がれた。「同盟内対立が政治的に收拾できず、意見の違いが政治分岐の対立に発展する時代が始まった」（50周年特別号）。

機関紙名改題に絞って第8回

同盟の中央政治方針を各戦線の闘う大衆に宣伝する武器としての性格と全国各戦線の闘いを系統的に紙面化する機能をもたねばならないことが決議される。

## 大会決定題字は『最前線』

それは統一社会主義同盟が結成当初から抱えていた「初期構造改革派革命戦略論」の客観主義・機能主義・大衆運動主義をどのように超えるかという問題意識に貫かれていた。その「初期構造改革派革命戦略論」とは「日本の労働運動、社会主義運動に指導的地位を占め、責任を持つている社会党と総評に正しい政策と思想を入れていけば影響力を拡大できる」という「機能前衛党論」として批判の対象に据えられた。

同戦略は活動領域を「政策提起集団」に限定するものとして批判され、労働者階級と学生層

の闘いを指導しうる全国政治指導部（新たなプロレタリア前衛党の形成）、全人民的政治新聞への飛躍がそれに代わる戦略として強調される（第8回大会議案）。構造改革論との決別、レーニン主義への回帰という急

進主義への転換であった。こうした路線転換は構造改革派潮流の象徴と見られていた機関紙「平和と社会主義」の題字変更とセットで行われ、7大会—8大会で題字変更が議題として浮上する。69年9月21日から



開催された同盟第8回大会で、機関紙編集局を全国委員会書記局の直属機関とする組織変更を決議、全国書記局とは別個の政治理論機関誌編集委員会を新設することを決めた。これまでに『平和と社会主義』を編集・発行する機関紙編集局は全国委員会などの同盟機関から相対的に独立した組織として存在し、時には全国委員会方針と対立する論者が掲載されるなど、組織的混乱の要因と指摘されてきた。

大会最終日に機関紙改題が取り上げられ、府県代表者会議から以下の四つの題字候補が提案された。『嵐をついて』、『最前線』、『先駆』、『平和と社会主義』。投票の結果、これまで同盟新潟県委員会機関誌として発行されていた『最前線』が多数票を獲得、『最前線』への改題が決定した。

ちなみに、『嵐をついて』は戦前に春日庄次郎らが組織した共

